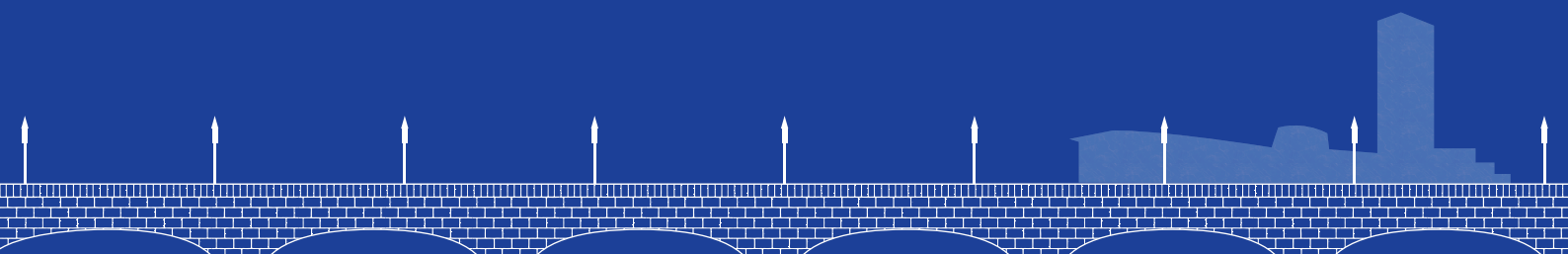




はじめに



はじめに

ごあいさつ



農林水産大臣 吉川 貴盛

G20 新潟農業大臣会合は、5月11日と12日の2日間にわたり、34の国・国際機関の参加を得て開催されました。我が国で開催される各G20閣僚会合の先陣を切り、また、「令和」という新たな時代が始まった直後のタイミングということで注目度も高く、規模の大きさとも相まって難易度の高い会合でしたが、おかげさまをもちまして、これを成功裏に終えることができました。ここに深く感謝申し上げます。

会合では、「農業・食品分野の持続可能性に向けて：新たな課題とグッドプラクティス」をテーマに、閣僚間で、それぞれの抱える農業や食料に関する諸課題について率直な意見交換を行いました。その成果として、全参加国の合意の下「2019年G20新潟農業大臣宣言」を採択し、農業の未来のために各国間で知見を共有することの重要性を確認できたことは、大変有意義であったと考えております。

また、歓迎レセプションの場で地元新潟産の食材を使用した料理を提供し、各国から高い評価が得られたことは、我が国の高品質で美味しい農林水産物・食品の輸出促進との関係でも非常に重要な意味を持つものであったと考えております。

このような素晴らしい成果は、G20新潟農業大臣会合開催推進協議会をはじめとする新潟県、新潟市やボランティアの皆様、警備を担当された新潟県警察及び第九管区海上保安本部の皆様等、多くの関係者の御協力なしには得られなかったものです。新潟市立高志中等教育学校の皆様による英語での提案発表も、会合の成功に大きく貢献しました。

改めて、皆様からの多大なる御支援と御協力に心から感謝を申し上げますとともに、新潟の今後益々の御発展を祈念申し上げます。

ごあいさつ



G20 新潟農業大臣会合開催推進協議会 最高顧問 新潟県知事 花角英世

2019年G20サミットの関係閣僚会合であるG20新潟農業大臣会合が、5月11日と12日の2日間、本県の朱鷺メッセで開催されました。日本で初めての開催となる今回の会合が、農業大県である本県で開催されたことは、非常に意義深いものと考えております。

会合では、農業・食品分野の持続可能性について議論され、その成果が「2019年G20新潟農業大臣宣言」という後世に残る形で発信されました。開催地として大変喜ばしいものと考えております。本県としては、会合で議論された、次世代の農業を担い革新を起こす人づくりと新技術、フードバリューチェーンに着目した農家等の収益向上策等を参考に、新潟の農業をさらに発展させることで、日本の食糧基地たる新潟の役割を果たしていけるよう努めてまいります。

新潟は、海や山などの豊かな自然に恵まれ、四季の変化もはっきりしています。世界に誇れる新潟の魅力の一つとして、この豊かな自然や先人の知恵に育まれた「食文化」の豊かさが挙げられます。34の国や国際機関の代表団約300名の方々には、歓迎行事等を通じて、県産食材を使用した料理や県内蔵元の日本酒などの新潟の「食」をはじめ、本県発祥の「錦鯉」、本県の「ものづくり技術」など、様々な「新潟の魅力」を紹介させていただきました。新潟の伝統文化なども含めたおもてなしに、大変喜んでいただき、新潟の魅力の一端を実感いただけたものと思います。

今回のG20新潟農業大臣会合の成功により、またひとつ新潟の国際会議開催の実績を重ねることができました。これらの経験を今後のさらなる国際会議の誘致につなげ、本県の交流人口の拡大や経済の活性化に努めてまいりたいと考えております。

最後に、会合開催に当たっての農林水産省の方々のご尽力に敬意を表するとともに、協議会の構成団体をはじめとした関係者、県民の皆さまのご支援、ご協力に対して、心より感謝申し上げます。

はじめに

ごあいさつ



G20 新潟農業大臣会合開催推進協議会 会長 中原八一 新潟市長

わが国初開催であり、閣僚会合のなかでも最初の日程で開催されることとなった G20 新潟農業大臣会合が、5月11日、12日の両日、本市の朱鷺メッセで開催され、成功裏に終了することができました。

2日間にわたる会合においては、増加する世界人口に対応するため、資源の持続可能性を確保しつつ、生産性を上げていくことなどを目指した議論が行われ、その成果が「2019年 G20 新潟農業大臣宣言」として採択されました。

この宣言では、本市がこれまで先進的に取り組んできたスマート農業などの新技術や、食と農の連携による農産物の高付加価値化といった取り組みなどが盛り込まれ、本市が未来の農業を切り開く拠点となり得るとの意を強くしたところです。

会合期間中、会場展示や歓迎レセプションなどにおいて、新潟の技術、物産、文化などの紹介や新潟の花きによる装花、新潟産品を活用した料理や地酒、スイーツなどを提供し、各国の代表団に大変ご好評をいただきました。

また、現地視察では、南区の水田での、自動運転田植機やドローンの活用など、国家戦略特区における先端農業の取り組みを各国代表団にご覧いただき、参加者からは「農業の未来を感じることができた」といった、高い評価をいただきました。

これまで新潟で開催した国際会合の中でも最大規模の会合において、新潟の食の魅力や農業の取り組み、みなとまち文化などを存分に発信できたことに加え、各国・国際機関の代表団の方々に、会合の運営にご協力いただいたボランティアの皆さんや新潟の未来を担う子どもたちによるホスピタリティを感じていただけたことは、大きな成果であったと考えています。

最後に、農林水産省をはじめ、関係機関、協議会の構成団体の皆さま、県民・市民の皆さまからの多大なるご支援とご協力に対し、心より感謝申し上げます。

コラム 1

G20 新潟農業大臣会合とは

< G20 サミットの概要 >

G20 サミットは、リーマン・ショックを契機に発生した経済・金融危機に対処するため、2008年(平成20年)11月に始まりました。正式名称は「金融・世界経済に関する首脳会合」で、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、カナダ、中国、欧州連合(EU)、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、イタリア、日本、メキシコ、韓国、南アフリカ、ロシア、サウジアラビア、トルコ、イギリス、アメリカの首脳が参加して毎年開催される国際会議です。

近年 G20 ではマクロ経済や貿易のみならず、世界経済に大きな影響を与える開発、気候変動・エネルギー、保健、テロ対策、移民・難民問題等の地球規模課題についても、活発に議論が行われています。

G20 サミットを開催する国は、12月から翌年11月までの1年間、G20 議長国となります。G20 議長国は、前議長国及び次期議長国と連携して G20 サミットの準備や運営を行います。(トロイカ体制)

日本は、2019年(令和元年)、大阪府大阪市にて、初めての議長国として G20 サミットを開催しました。

< G20 新潟農業大臣会合の概要 >

G20 新潟農業大臣会合は、G20 大阪サミット(6月28日・29日)の関係閣僚会合の1つとして開催されました。G20 の農業大臣会合は、2011年(平成23年)にフランスのパリで食糧安全保障の確保を目的として開催されたのが始まりで、新潟での開催で6回目となりました。

会合では、G20 メンバー国と招待国6か国、招待国際機関8機関が参加し、増加する世界人口に対応するため、資源の持続可能性を確保しつつ生産性を上げていくための方策などを議論し、「2019年 G20 新潟農業大臣宣言」が採択されました。

< 大阪サミット関係閣僚会合 >

大阪サミットの開催に合わせ、新潟市をはじめ全国8都市で関係閣僚会合が開催。

